

乾燥弱毒生麻しんワクチンの 副反応疑い報告状況について

○乾燥弱毒生麻しんワクチン

商 品 名 : ①「ビケンCAM」
②はしか生ワクチン「北里第一三共」
③乾燥弱毒生麻しんワクチン「タケダ」
製造販売業者 : ①一般財団法人 阪大微生物病研究会
②北里第一三共ワクチン株式会社
③武田薬品工業株式会社
販 売 開 始 : ①昭和46年6月
②昭和62年5月
③昭和58年10月
効 能 ・ 効 果 : 麻しんの予防

副反応疑い報告数

(平成30年5月1日から平成30年8月31日報告分まで)

平成30年5月1日から平成30年8月31日までの医療機関への納入数量を接種可能のべ人数とし、副反応疑い報告頻度を計算したものは以下のとおり。

※報告日での集計のため、以下の件数には接種日や発生日が対象期間以前の症例も含まれている。

(単位:例(人))

	接種可能のべ人数 (回数)	製造販売業者からの報告		医療機関からの報告	
		報告数 ():接種日が左記期間内の症例		報告数 ():接種日が左記期間内の症例	
		報告頻度	報告頻度	うち 重篤	
平成30年5月1日 ～平成30年8月31日	29,750	3 (0)	0	0	0
(参考) 平成25年4月1日～ 平成30年8月31日まで の累計	535,964	15	6	4	
		0.01% (0%)	0%		0%
		0.003%	0.001%	0.001%	

※1人あたり0.5mL接種されたと仮定した。

平成30年5月1日から平成30年8月31日報告分の重篤例の転帰

(単位:例(人))

	製造販売業者からの報告						医療機関からの報告					
	回復/軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計	回復/軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計
重篤例数	1	1	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0

(注意点)

- ※ 副反応疑い報告については、医薬品との因果関係が不明なものを含め、製造販売業者又は医療機関から報告されたものであり、個別に医薬品との関連性を評価したものではない。
- ※ 「重篤」とは、死亡、障害、それらに繋がるおそれのあるもの、入院相当以上のものが報告対象とされているが、必ずしも重篤でないものも「重篤」として報告されるケースがある。
- ※ 非重篤症例には、重篤度が不明の症例も含まれている。
- ※ 製造販売業者からの報告は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10に基づき「重篤」と判断された症例について報告されたものである。なお、製造販売業者からの報告には、医療機関から報告された症例と重複している症例が含まれている可能性があり、重複症例は、医療機関報告として計上している。また、その後の調査等によって、報告対象でないことが確認され、報告が取り下げられた症例が含まれる可能性がある。
- ※ 製造販売業者からの報告には、複数の製造販売業者から重複して報告されている症例が含まれている可能性がある。

乾燥弱毒生麻しんワクチンの副反応疑い報告状況

平成25年4月1日から平成30年8月31日までの報告数及び症状種類別報告件数は以下のとおり。医療機関からの報告については、報告医が「重篤」としたものを集計した。

	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告	平成25年4月～平成30年4月までの企業報告と医療機関重篤症例の総計数	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告	平成30年5月～平成30年8月までの企業報告と医療機関重篤症例の総計数
報告数	4	12	16		3	3
症状別総件数	6	13	19		3	3
症状名の種類	症状の種類別件数					
一般・全身障害および投与部位の状態						
発熱	1	2	3			
感染症および寄生虫症						
* ワクチン接種後の麻疹		1	1			
* 亜急性硬化性全脳炎		1	1			
* 脳炎		2	2			
* 麻疹	1		1			
* 無菌性髄膜炎	2		2			
肝胆道系障害						
肝障害	1		1			
耳および迷路障害						
* 突発性難聴					1	1
神経系障害						
* ギラン・バレー症候群		1	1			
* ジスキネジア		1	1			
* 意識消失		1	1			
脳症	1		1			
痙攣発作		3	3			
妊娠、産褥および周産期の状態						
* 流産					1	1
免疫系障害						
アナフィラキシー反応		1	1		1	1

*未知の事象

乾燥弱毒生麻しんワクチンの副反応疑い報告状況

予防接種後副反応疑い報告書の別紙様式1の報告基準に記載のある症状(「その他の反応」は除く)について、報告状況をもとに集計を行った。

	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告	平成25年4月～平成30年4月までの企業報告と医療機関重篤症例の総計数	医療機関からの報告	製造販売業者からの報告	平成30年5月～平成30年8月までの企業報告と医療機関重篤症例の総計数
アナフィラキシー*1		1	1		1	1
脳炎・脳症*2	1	3	4			
けいれん*3		3	3			

- *1 アナフィラキシー反応
- *2 亜急性硬化性全脳炎、脳炎、脳症
- *3 痙攣発作

乾燥弱毒生麻しんワクチン 重篤症例一覧
 (平成30年5月1日から平成30年8月31日までの報告分について作成)

製造販売業者からの報告

No	年齢 (発生時)	性別	接種日	ワクチン名(ロット番号)	同時接種	同時接種ワクチン	基礎疾患等	症状名	発生日	接種から症状発生 までの日数	企業重篤度	転帰日	転帰内容
1	25歳	女	平成30年2月8日	乾燥弱毒生麻しんワクチン(松浦株)*阪大微研(R2101)	あり	乾燥弱毒生麻しんワクチン(田辺株)*阪大微研(M3001)	喘息	アナフィラキシー反応	平成30年2月8日	0	重篤	平成30年2月12日	軽快
2	不明	女	平成30年2月16日	乾燥弱毒生麻しんワクチン(シュワルツFF-8株)*武田薬品	なし		なし	流産	不明	不明	重篤	不明	不明
3	34歳	女	不明	乾燥弱毒生麻しんワクチン	なし		なし	突発性難聴	不明	不明	重篤	不明	未回復 (報告日:平成30年7月20日)

※複数の製造販売業者から重複して報告されている症例が含まれている可能性がある。

乾燥弱毒生麻しんワクチン接種後のアナフィラキシー※が疑われる症例まとめ(重篤症例)

※【選択基準】

症状名が、「アナフィラキシー」、「アナフィラキシー反応」、「アナフィラキシーショック」、「アナフィラキシー様反応」、「アナフィラキシー様ショック」として報告された症例。

報告期間	報告数**	専門家の評価によりアナフィラキシーのプライトン分類評価が3以上とされた症例	推定接種人数
平成25年4月～平成25年6月	0	0	3万人
平成25年7月～平成25年12月	1	0	4万人
平成26年1月～平成26年7月	0	0	5万人
平成26年8月～平成26年10月	0	0	2万人
平成26年11月～平成27年6月	0	0	5万人
平成27年7月～平成27年12月	0	0	4万人
平成28年1月～平成28年4月	0	0	3万人
平成28年5月～平成28年8月	0	0	5万人
平成28年9月～平成28年11月	0	0	3万人
平成28年12月～平成29年4月	0	0	3万人
平成29年5月～平成29年8月	0	0	5万人
平成29年9月～平成29年12月	0	0	2万人
平成30年1月～平成30年4月	0	0	7万人
平成30年5月～平成30年8月	1	1	3万人

※※(注意点)

・ 報告日での集計のため、報告数には対応する報告期間より以前に接種又は発生した症例も含まれる。

・ 同一の症例が複数の製造販売業者や医療機関から重複して報告されている可能性がある。報告内容から重複であることが確認できれば重複を排除して集計しているが、重複か否か判断できない場合はそのまま計上している。

ワクチン接種後のアナフィラキシー※が疑われる症例(重篤)

※【選択基準】

症状名が、「アナフィラキシー」、「アナフィラキシー反応」、「アナフィラキシーショック」、「アナフィラキシー様ショック」として報告された症例。

平成30年5月1日～平成30年8月31日入手分まで

No.	接種ワクチン	年齢・性別	基礎疾患等	経過	症状名	転帰	専門家の評価			事務局総合評価
							ブライトン分類レベル	因果関係	意見	
対象期間内 1 企 No.1	乾燥弱毒生麻しんワクチン(田辺株)* 阪大微研(M300) 乾燥弱毒生風しんワクチン(松浦株)* 阪大微研(R2101)	25歳・女性	喘息	接種当日 乾燥弱毒生風しんワクチン及び乾燥弱毒生麻しんワクチンを同時接種。 接種15分後 全身に発赤が発現。 接種45分後 息苦しさ、持続する咳嗽が発現。 アドレナリン、d-クロルフェニラミンマレイン酸塩、ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム、ファモチジンを投与。 接種7時間30分後 SpO2が低下したため、酸素濃度を上げて対応。治療と経過観察のため入院。 接種4日後 症状は軽快しており、退院。	アナフィラキシー反応	軽快	OA委員:2 OB委員:2 OC委員:2	OA委員:因果関係は否定できない OB委員:因果関係は否定できない OC委員:因果関係は否定できない	OA委員:因果関係は否定できない。 OB委員:レベル2のアナフィラキシーと思われる。 OC委員:全身の発赤を皮膚のMajor症状、息苦しさや持続する咳嗽は、呼吸器のMinor症状に該当すると考えると、レベル2。	ブライトン分類3以上のアナフィラキシー症例。ワクチン接種との因果関係は否定できない。